

平成19年5月8日

〒590-0494

京都大学原子炉実験所
助手・小出裕章様

〒177-0041 4-25

蒼天社政治情報センター
代表・石川鐵也



公開論議における結論Ⅳ

平成19年4月29日付け「公開論議における結論Ⅲ」に対する小出論(5月2日付)を拝見しましたが、何故、不毛の論争を繰り返す愚を理解されないのでしょうか。

学者、研究者同士であれば、興味の有無でもって論じて良いのですが、政治、行政はそうではありません。私も、将来を憂えるからこそ是々非々論を展開させ、政府、事業者の非の部分については批判するのです。

それ故に、無責任な反対派ばかりでなく、多くの無責任な推進派からも恨まれ続けているのです。是々非々論の必要性を小出さんにもご理解いただければ幸いです・・・

— 記 —

1. [原子力発電の代替エネルギーについて]

小出さんが「原子力発電の即刻廃絶」を望もうと望むまいと、「現状における『原子力発電の即刻廃絶』などは非現実的」と断言します！「常識ある人々の総意」と言っても過言ではありません!!

本月4日、国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」第3作業部会においても、各国論争の末に、「原子力発電も温暖化対策に必要な重点技術の一つ」と明記されました。小出さん、愚論を繰り返しても詮無いことです。終了しましょう。

2. [安定供給について]

日本野鳥の会によると、米国カリフォルニア州アルタモント峠に設置された風力発電施設は、バードストライクの影響で、風車の運転停止や移動、撤去といった措置が講じられているそうです。小出さん、愚論を繰り返しても詮無いことです。終了しましょう。

3. [核燃料サイクルについて]

小出さん、貴方のように「平時の現在、関係者がどのようにしているかなど意味のないことです」と断じたら、「平和な時には何らの議論も不要」となりますね。

原子力技術に手を染めた現状において、「核拡散を防ぐための最良の方策は、原子力技術に手を染めないことです」と言ったところで詮無いことです。

「もんじゅ」後継炉の見通しも明らかになってきたようですし、小出さんのように、「反対ありき」では何ら国民の為にもなりません。本項も終了しましょう。

4. [高レベル放射性廃棄物の処理・処分について]

小出さん、貴方は何故、都会での議論に拘るのでしょうか。何故、「国民全体で議論すべきだ」と断言されないのでしょうか。

自治体を二分するような議論が生じるのは「民主社会」故です！これは、原発問題に限った事ではありませんし、日本だけに発生する問題でもありません。工場誘致やゴミ焼却場建設等においても度々発生していますし、首長選挙においても見受けられる現象です。小出さんは承知されていないのかも知れませんが、「自治体を二分するような議論」は民主国家の随所で発生している事実なのです！

小出さんは、「石川さんは下記事実(1)~(10)なるものを挙げていますが、その中の、高レベル廃物の地層処分については議論が尽くされていないということは本当です」と述べておられますが、「他の部分については本当じゃない」とでもおっしゃるのですか。

小出さんは「何のために発言し、行動されているのでしょうか」にも答えておりませんし、「地上保管が最良の方法と信じておられるのであれば、国、都道府県及び市町村等に対しても、『地上保管』の必要性を具体的に説いてください。新しく建設しなければならない『地上保管施設』が、六ヶ所村に存在する中間貯蔵施設と同様の仕様で良いのか、どこに、どのようにして建設すべきなのかをも具体的に説いてください。そうすることによって、初めて見えてくる事実もあるのです。『将来を憂えての活動』と自負されているのであれば、即実践すべきでしょうが・・・」にも応えておりません。

また、「今回石川さんは「地層処分場—中略—」と書かれてきましたが、妥当ではありません」と断じ、「地層処分場が破壊されても一切手が付けられません。地上保管施設の建屋が倒壊したとしても、保管容器がそれなりの機能を保っておれば、対処の方策があります」と述べていますが、埋め立てされた地層処分場の破壊とは一体どのような状況を示しているのか、かつ保管容器がそれなりの機能を保っておれば大丈夫なのか。地上で保管容器がそれなりの機能を有しなくなったらどうなのか、などについては不明であり、「小出さん得意のタラ・レバ論」と言わざるをえません。

このような状況下において、「私はいかなる議論も歓迎します」と記されても、苦笑するほかありません。きちんとした反論が出来ないのであれば、本項目についても終了しましょう。

以上